

自分には関係ないと思っていましたが、東京に行くことは簡単ですが東大や企業を訪れるというのは貴重な経験になると思い東大見学会に参加しました。考えていた通りとても有意義な2日間で、これからの進路を考える上で非常に役に立ちました。

1日目午前中の新日鉄住金では、家族旅行で東京を訪れたり、個人でオープンキャンパスに来たのでは決してできない体験が出来ました。世界に誇る日本の鉄鋼メーカーの本社に入るというのは、その会社に就職する以外には考えられません。この経験は、まさに一生ものの宝物です。まず、新日鉄住金についての話を、スライドを見ながら聞きました。今まで名前しか聞いたことのなかった会社についてよく知ることが出来ました。次に、班ごとに分かれて討論会をしました。討論の題は、「将来のために今取り組んでいること」です。普段ふざけているように見える友人たちも、実はいろいろなことを考えながら生活しているということに気づかされました。しかしそれと同時に、自分も何もしていなかったわけではなく、無意識ではありますが他人の気持ちを考えながらコミュニケーションを取ろうとしていたことにも気づきました。自分の知らない他人、自分の知らない自分に気付けたというのは初めての経験で、新鮮さを感じました。また、討論会を仕切っていただいた人たちはみな素晴らしい方々ばかりで、的確なアドバイスをいただきました。「文系に進もうと考えている私に鉄鋼メーカーは関係ない」と考えていたのが恥ずかしいです。文系を考えている私にとってもとてもためになる時間でした。

班ごとの行動で見学したアディーレ法律相談事務所では、現役の弁護士の方の話を生で聴くことができました。法学部に行きたいと考えていましたが、より一層その思いが強くなりました。今まで漠然としていた夢が形づき始めました。高校生のうちとはとにかく一生懸命勉強してできるだけレベルの高い大学に入れるよう努力することが大切だそうです。これは弁護士に限ったことではないと思うし、そのために仙台二高に入ったのだから頑張りたいと思います。

今回の東大見学会で個人的に一番面白いと感じたのは、OBとの座談会です。自己紹介を聞いただけでも驚いてしまうような人たちの話を聞いたのはすばらしかったです。理系の大学院で遺伝子などの研究をしている人は

、英語で書かれた数学の参考書を読んで理解したり、レポートを英語で書いたりしたそうです。たとえ理系に進むとしても、英語は非常に重要で、これからの時代で英語ができないという問題はずっと付きまってくるということを知りました。正直、何を言っているのかわからない箇所もありましたが、大学での勉強のために高校の勉強は必要不可欠だということはわかりました。他の人とも話しましたが、全員が口を揃えて言うことが、「英語を完璧にしろ」ということです。あまり得意でなく、苦手意識が強かった英語の重要性について語っていただき、モチベーションへと繋がりました。また、東大に一浪して合格した先輩が、「高2の夏から大学に合わせて勉強しろ」とおっしゃっていました。それは大学の勉強が1年遅く、失敗した経験から学んだ僕たちへのアドバイスだったようです。せっかく聞いたアドバイスを無駄にしないようにしたいです。当初、座談会なんてつまらないものだと考えていたのに、今では一番印象に残っています。本当に貴重な体験でした。

2日目の東大オープンキャンパスでは、朝ホテルから東大まで行くのも自分達でやらなければならない、判断力が要求され苦勞しましたが、これも二高生として必要なことだと思ひ、これから社会に出て行く人間としても必要なことだと感じました。東大内では学部ごとに説明会の場所や時間が違ったりして、少し混乱しました。法学部についての説明会や体験授業を受けてきました。説明会では、文1からは大学院に進む人が多いことを知りました。また、弁護士になるための司法試験では、国家試験にもかかわらず東大の大学院から受けた受験者の実に80パーセント以上が合格していることも知りました。前日に訪問させていただいたアディーレ法律相談事務所の弁護士の方は、「多くの資格は持っているに越したことはないが、それよりも勉強してできるだけ若いうちに弁護士の資格を取ることの方が重要だ」とおっしゃっていました。それを達成するのに東京大学は最適な場所だと気づきました。流石日本一の大学だと思います。法学部の体験授業では、法律に関する授業と、明治維新

が起きた頃の歴史についての授業を受けました。どちらも中学レベルの知識なら持っているところでしたが、もう一步踏み込んだ知識や別の視点からのアプローチで、とても新鮮だったというか、興味深いものでした。また、受講者は100人ほどいましたが、質問時間に質問していた人の話し方の訛りから関西からわざわざ東京まで来ている人がいることを知り、大学入試では意識の高い全国の高校生たちと戦わなければならないということに改めて気づかされました。それなのに自分はまだ意識が低く、勉強をするという習慣が確立されていません。後でやろう、明日やろうではなく、今勉強すること。大学入試対策は3年になってから、ではなく1年生のうちから土台となる基礎を定着させておくこと。それが必要であることに気がきました。

今回の東大見学会は中学校の修学旅行とは全く異なり先生の引率も最小限であったため、生徒の自主性・積極性や判断力が必要とされました。しかし、普段決してできないような体験をでき、素晴らしい結果を残してきた人達と会話できたというのは、東京ディズニーランドや浅草に遊びに行った修学旅行なんかよりも素直に面白く感じられ、有意義な時間だったと思います。もしまたこのような機会があったら是非参加したいと思います。